

千葉菌類談話会通信 25号 目次

勝浦の朝市のきのこ	吹春 俊光	4
カキシメジ	伊豆 明雄	7
エジンバラ植物園で Corner 博士の標本を見てきました	根田 仁	8
源氏物語ときのこ	小沢 晴司	12
きのことの出会い	石井 俊靖	14
茸との出会い	川添 訓子	15
チャオニテングタケは珍しいきのこか？	吹春 俊光	16
青木実さんと本郷・浜田・相良	相良 直彦	20
第8回極地と高山帯の菌学国際シンポジウムに参加して	糟谷 大河	23
私ときのこ	西條 雅明	29
最終キノコ	前川 啓二	30
ウスキキヌガサタケの匂い	吹春 公子	34
房総でアカイカタケを発見	大藪 健	37
砂防ダムに消えたナラタケの城	高橋 勝雄	38
匂いの源は	高橋 勝雄	39
きのこに憧憬があったら森林の生活はもっと楽しかった	松田 弘義	40
きのこと私	長谷川 貴志	41
雨の奥多摩ハイキングの忘れられない思い出	中川 廣子	42
春日大社のクモタケ	大久保 泰和	44
続千葉県ハツタケ事情	吹春 公子	46
2008年度行事報告	吉田悦子、吹春公子	49
きのこ・かび 関連図書の紹介	吹春 俊光	53
きのこ歳時記 6 一万葉集から江戸の狂歌まで—	今野 英山	62
房総きのこ今昔		6, 43

表紙に寄せて

表紙の絵の作者、小林鄰先生は明治19年茨城県生まれで、茨城県師範学校を卒業後、当時中学教員の登竜門で難関と言われた文部省の中学校教員試験のうち、植物・動物及び生理・鉱物の3科目に合格し、明治40年よりお亡くなりになった昭和25年まで教員をされていました。その頃はキノコの研究者は少なく、キノコ関係の参考文献もほとんど見当たらない時代でした。先生はキノコの同定については川村清一博士(昭和4年日本菌類図説出版)の指導を受け、外国書を取り寄せて独学で研究をしていました。昭和初期の北総台地はマツ林と雑木林に覆われていて、林内の手入れも良くキノコの発生にはとても良い環境でした。しかしこの時代は今と違って写真機がまだ一般に発達していませんでした。そこでキノコを採取してくると一つ一つこつりこつりと写生して図を描き研究を進めていました。先生がお亡くなりになった後、遺品の中に212枚のキノコの写生図が残されていました。この図集は当時下総台地に発生したキノコ類を知る上で大変貴重な資料といえましょう。(腰野 文男)